

【連載・県立高校の今】 第6回（最終回）

船橋高校（理数教育の拠点校）、松戸向陽高校（福祉教育コンソーシアム）
 匝瑳高校（総合学科）、銚子商業高校（通信制協力校）

県教育庁企画管理部教育政策課高校改革推進室

1 はじめに

今回は(1)理数教育の拠点校、(2)福祉教育に係るコンソーシアム、(3)総合学科への改編、(4)通信制協力校への指定の4項目について、概要と各校の取組を紹介する。令和6年度から新たな学びが加わる学校を紹介する「連載・県立高校の今」は今回で最終回となる。

(1)理数教育の拠点校について

理数科では、様々な事象に関わり、数学的・理科的な見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通じて課題解決のため必要な資質・能力を育成することを目指しており、令和5年現在、県立高校では船橋、柏、木更津、佐倉、佐原、匝瑳、長生、成東の8校に設置されている。令和6年度から船橋高校を理数教育の拠点校とし、理数教育連携事務局を設置する。

(2)福祉教育に係るコンソーシアム

本県では農業教育に関して「アグリサポーターズちば」、工業教育に関して「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」のコンソーシアムを設置し、産・学・官が相互に連携することで、教育の向上を図っている。令和6年度には松戸向陽高校を中心とした福祉教育に係る「千葉県福祉系高校人材育成コンソーシアム（仮称）」が新たに加わる。

(3)総合学科への改編について

匝瑳高校には普通科と理数科が併設されているが、生徒の多様な進学希望に対応し、大学卒業後の就業までを見通したキャリア意識の高い人材を育成するため、普通科と理数科を改編し、総合学科を設置する。

(4)通信制協力校について

本県唯一の公立通信制高校である千葉大宮高校では、生徒は普段は自宅で学習し、学校にレポート課題を提出し添削を受けるほか、スクーリング（面接指導）や定期試験のために通学することで、学習を進めるが、千葉市に所在する千葉大宮高校が遠い生徒にとっては、通学が負担となる。

そのため、千葉大宮高校から遠距離にある高校でスクーリングや定期試験が受けられるよう通信制協力校を指定している。令和6年度から現在の館山総合高校に加え、銚子商業高校が協力校に加わる。

2 船橋高校の取組

(1)拠点校設置の目的と運営体制

理数科を設置する県立高校8校（以下、理数校）が協力し、研究機関や大学（以下、外部機関）及び小・中学校との間で理数関連の取組を通じた連携を推進することで、県全体の理数教育の充実を図る目的で、事務局を本校に置き、理数校が協力して運営していく。

(2)具体的な取組と計画

①千葉県課題研究発表会の開催

理数校が力を入れて取り組んでいる生徒の課題研究の発表及び交流の場を提供する。互いの研究について質疑応答したり、議論したりすることで、自らの研究をより客観的に捉え、深めていく機会とする。

②サイエンススクールマグネット千葉の運営

理数校（SSH校を含む。）を地域の拠点として、地域内の小・中学校との連携強化、理

数教育の普及を目指す。児童生徒を対象とした出前授業や実験教室などの交流会を通じて理数に興味を持ってもらう機会を提供する。

*サイエンススクールマグネット千葉とは
県立の理数校8校に市立千葉、市立銚子、市川学園、芝浦工大柏を加え、児童生徒向けの理数教育普及の活動を企画・運営する組織である。(以下、SSマグネット)

③理数教育に関する広報と外部機関との連携
県全体での理数教育の振興を図るため、SSマグネット関係校や小・中学校との連携強化と本事業について周知をする活動を行う。外部機関との活発な連携を通じて、理数教育の高度化を図る。また、専用Webページの開設や各種媒体、県主催のイベントへの参加など、理数科進学及び理数教育に関わる広報活動、外部機関と情報交換をする場を設定する。

(3)今年度の活動

今年度は準備年度として「理数教育の拠点校」の広報に力を入れてきた。まず本事業の周知にあたり、ポスターを作成し県内の中学校に配布した。



理数教育拠点校のポスター

また、10月14、15日に総合教育センターで行われた「千葉県児童生徒・教職員科学作品

展」の一般公開にあわせ、理数科の紹介ブースを設置した。県内の理数科を設置する公立高校10校から、各校の取組をまとめた映像や資料を集め、展示と配布を行った。参加者の多くが小学生とその保護者であるため、当初は高校の活動について興味を示してもらえなか疑問であったが、ブースに立ち寄る人は学校ごとの取組を比較したり、紹介動画を親子で楽しそうに眺めたりする姿も多くみられた。将来の理数科に興味を持ってもらうきっかけづくりとしては効果的な場であったと思う。



理数科紹介ブースの様子

また、本事業の取組を集約し、成果の共有や案内発信の場として公式Webの開設を行った。

3 松戸向陽高校の取組

(1)はじめに

県内ではそれぞれ学科やコース、系列といった課程を通して福祉教育を学び、介護に関する資格取得に結び付けることができる高校が12校ある。これらの高校は各々が近隣施設や関係団体等と連携しながら福祉教育を推進し、地域における人材を育成、輩出している。

この中で、本校は県内唯一の福祉系専門学科(福祉教養科)を有し、国家資格である介護福祉士養成校としての役割を担っている。また、県内の福祉教育拠点校と位置付けられており、これまでも千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会として協働する体制を保ちながら、県内福祉系高校の連携を発展させるとともに、関東地区や全国の福祉系高校との懸

け橋を務めている。

(2)コンソーシアムの設置

令和6年度から、本校を事務局とし、コーディネーターを配置した上で、「千葉県福祉系高校人材育成コンソーシアム（仮称）」が設置される。

このコンソーシアムでは、企業や施設が有する介護福祉技術や情報、福祉系大学、専門学校、社会福祉協議会等の関係諸団体の知見や設備を生かしながら、産・学・官が相互に連携して、千葉県内の高校における福祉教育の質をさらに高め、地域を支える人材を育成する。また、小・中学校やその保護者などに対し、福祉の仕事についての理解促進を図るとともに、福祉教育や職業が持つ魅力を積極的に発信することを設立の目的としている。

(3)今後の展望

現在でも、県内福祉系の学科等を設置する各高校の努力によって、今日的な課題と向き合った様々な学びが実践されている。特にコロナ禍を経験し、実習等の中断が余儀なくされた困難から生み出された学習活動の工夫は、学ぶ側にとっても主体的かつ個別最適化された、新しい実学の在り方として財産ともなっている。



介護実習の様子

少子高齢化が進み、介護人材の圧倒的な不足が社会の耳目を集める中、未来を担う子どもたちが福祉教育の入口で立ち止まる姿もある。イメージだけに左右されない福祉教育を伝え、共生社会進展の一助となるために、産・

学・官の力を結集したコンソーシアムを実現していくことが本校の大切な役割である。

4 匝瑳高校の取組

本校は今年度に制服デザインを一新し、令和6年度には、創立100周年の年に進学を重視した総合学科となる大きな節目を迎える。

(1)総合学科設置にむけて

校訓である「至誠」「剛健」「快活」「高雅」に加え、教職員と生徒とで話し合い、学校生活の中で身に付けてほしいスクールポリシー(S.O.U.S.A)を制定した。



スクールポリシー改定会議の様子

S : Sustain (持続すること)

困難を乗り越えて粘り強く進み続ける。

O : Output (表現すること)

相手に伝わるよう、自分らしく表現する。

U : Unify (統合すること)

学習内容を既習の知識・技能と組み合わせる。

S : Sympathy (共感すること)

相手の言動を公平な視点で分析し理解する。

A : Ambition (大志を抱くこと)

自分の目指す進路を積極的に探究する。

上記の校訓とスクールポリシーを軸に、生徒の学びの目的を明確にさせるための探究の充実、大学卒業後を見据えた、社会に通用するための選択科目の整備を行っている。

(2)幅広い進学に対応する4つの系列

①PEACHキャリア系列

普通科における「文系」よりも、専門的な

科目の選択が可能である。Politics、Education、Art、Communication、Humanitiesの頭文字をとり「PEACH」とした。人間の精神活動の「果実」を学ぶための系列。

②STEMキャリア系列

普通科の「理系」に加えて、理数教科の発展的な内容まで選択が可能である。Science、Technology、Engineering、Mathematicsの頭文字をとり、「STEM」とした。社会の「根幹」技術を学習・創出するための系列。

③国際ブリッジビルダー系列

国際理解コースを発展させ、中国語・韓国語に加え、フランス語・スペイン語の履修を可能にし、海外短期留学を推奨している。グローバルな視点を持ち世界に橋を架ける人材を育成するための系列。

④360°キャリアビルダー系列

幅広い科目選択が可能で、医療系をはじめとした文系・理系にとらわれない学問の融合領域に対応できる系列。

5 銚子商業高校の取組

(1)通信制協力校とは

コロナ禍でICT機器を活用した学習が導入され、自宅での学習の機会も増えたことや、不登校などの様々な理由で通信制高校を志望する生徒が増加している。しかしながら、公立の通信制高校は、千葉市にある千葉大宮高校のみで、千葉市から遠くに住む子どもたちが、公立の通信制で学ぶためには、面接指導（スクーリング）や試験の際に時間をかけ通学する必要があった。そこで千葉市まで通わず、居住地の近くで通信制の授業を受けることを可能にするのが、通信制協力校である。高等学校通信教育規程第3条によると、協力校は、実施校の設置者の定めるところにより実施校の行う面接指導及び試験等に協力する

ものとする、となっている。つまり、協力校の主な役割は、面接指導と試験に協力することである。

(2)通信制協力校の開設に向けて

すでに平成29年度から館山総合高校では、通信制協力校として千葉大宮高校の授業を実施しており、千葉県南部の生徒が館山総合高校水産校舎で学んでいる。

令和6年度からは、銚子商業高校も通信制協力校の指定を受け、通信制の授業を銚子商業高校海洋校舎で開講できるよう準備を進めている。しかしながら銚子商業高校海洋校舎は長寿命化の改修工事のため、当面使用することができず、令和6年度は県立銚子高校の校舎を借りてのスタートとなる。

(3) 学習内容について

- ①通信制協力校では、千葉大宮高校で実施する授業と同じ科目、学習内容を行う。
- ②前期8回、後期8回の年間16回の面接指導を実施する。
- ③令和6年度の銚子商業高校における面接指導については、金曜日1日のみ。（千葉大宮高校の校舎では日・月・火の3日間同じ授業が実施されている。）
- ④定期考査については協力校（令和6年度は県立銚子高校）で実施。レポートについては、千葉大宮高校へ自身で直接送付して提出する。
- ⑤学校行事等については千葉大宮高校の校舎で実施する。
- ⑥協力校で面接指導が実施できない科目等については、銚子高校の校舎で集中スクーリングを行う。

その他細かな点において、千葉大宮高校（実施校）と違うところもあるが、通信制協力校の開始によって、千葉市への通学が難しい子どもたちが、居住地に近い場所で県立の通信制教育を受けることができることとなる。